



JAPAN
ENERGY SUMMIT
& EXHIBITION
ジャパン・エネルギー・サミット

カンファレンス 概要資料

2026年5月

26日(火)～28日(木)

東京ビッグサイト



エネルギー効率の改善、デジタル化、AI、そして需要側エネルギー変換を前進させる

2026年5月26日から28日までの3日間、東京ビッグサイトにてジャパン・エネルギー・サミットが開催されます。本イベントでは、政府、産業界、金融界の世界各国のリーダーたちが再び一堂に会し、供給の安全性を強化し、インフラの拡充を可能にし、産業競争力を守るために具体的な戦略を策定します。

3日間にわたる充実したプログラムでは、日本のエネルギー政策と地域的な連携を軸とし、参加者は、政策枠組みの整備、資本動員、技術導入に関する実践的な議論を進めます。

また本サミットでは、天然ガス・LNG、水素・アンモニア、再生可能エネルギー、原子力といった、エネルギー・バリューチェーン全体にわたる最新のソリューションを紹介する国際展示会が同時開催されます。

また、テクニカル・カンファレンスでは、長期的なエネルギー安全保障と経済のレジリエンスを支えるために欠かせない、脱炭素化とデジタル化の最新ソリューションを探る貴重な機会を提供します。

ジャパン・エネルギー・サミットは、業界の交流、国際的な協力、そして次世代エネルギーシステムの大規模な発展を推進するための、地域における最重要の場です。



イベント概要



| 10,000+
グローバル参加者

| 1,000+
カンファレンス参加者

| 200+
出展企業

| 250+
スピーカー

| 100+
参加国

| 6
リーダシップ
ラウンドテーブル

セクター

ジャパン・エネルギー・サミットは、エネルギー分野における多様な視点を共有し、専門知識を結集し、共に未来のエネルギー社会を描くための貴重なプラットフォームとしての役割を果たしています。

笹山 晋一、
取締役代表執行役社長、
東京ガス株式会社 *敬省略

ジャパン・エネルギー・サミットは、エネルギー政策、ビジネス戦略、投資の優先事項が交わる決定的なプラットフォームとして機能します。

本イベントは、日本の地域およびグローバルなエネルギー市場における役割を強化し、その戦略的方向性、投資環境、技術革新が未来の基盤を築くことを保証します。

天然ガス

水素・アンモニア

低炭素ソリューション

再生可能エネルギー

原子力エネルギー

港湾・海運

AI・デジタル技術



イベント概要



展示会

世界の最新製品・ソリューションを一堂に紹介し、エネルギーの未来を見据えるための直接的なインサイトを提供します。



ストラテジーカンファレンス

エネルギー分野の将来を方向づける、ハイレベルな議論や政策決定のセッションが行われます。



テクニカルカンファレンス

最新の技術革新、科学研究、エンジニアリングソリューションに関する詳細なプレゼンテーションやセミナーが実施されます。



ジャパンエネルギークラブ

ジャパン・エネルギー・クラブは、エネルギー転換を牽引する業界リーダー、イノベーター、インフルエンサーをつなぐ、ビジネスに特化したユニークなラウンジです。



リーダーシップ・ラウンドテーブル

政府関係者と産業界のリーダーが非公開の場に集まり、将来的なエネルギー生態系を最適化するための戦略を議論・検討します。



クライメートテック・ゾーン&シアター

気候変動対策の最前線を紹介するクライメートテクノロジー・イノベーション専用ゾーン。



スタートアップゾーン

エネルギー分野におけるイノベーションを推進する新興企業を紹介・支援するために設計されたダイナミックなスペース。

ストラテジック・サミット



ストラテジック・サミットでは、エネルギー大臣、CEO、金融関係者、そして有識者が一堂に会し、日本のエネルギーリーダーシップを強化し、世界的なエネルギー転換目標の達成に向けた実践的な戦略を策定します。

本サミットでは、エネルギー安全保障と脱炭素化の重要なバランスに焦点を当て、LNG市場、水素・アンモニア・再生可能エネルギーの拡大、デジタルトランスフォーメーション、電化・スマートグリッドインフラ、原子力開発、クリーンファイナ

ンスなど、重要課題に関するハイレベルな議論を展開します。

世界の業界リーダーや政策立案者による基調講演およびダイナミックなパネルディスカッションを通じて、ストラテジック・サミットは重要な知見を提供し、国際協力を促進し、実行可能な取り組みを推進します。日本がレジリエントで低炭素、かつデジタル化が進んだエネルギーの未来へと歩みを進める中で、ストラテジック・サミットは政府と産業界が次世代の世界的エネルギー発展を形づくるための不可欠な場であり続けます。

テーマ



エネルギー需要

増大する電力需要と脱炭素化目標を両立させ、実現可能なエネルギー転換を達成する。



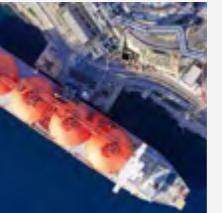
グリーントランスフォーメーション(GX)

金融、投資、技術を活用して、未来のグリーン産業の展開を加速する



エネルギー供給

複雑かつ変化する環境の中でも、安定した供給を確保するために、強靭で低炭素なエネルギーミックスを維持する。



国際エネルギー協力

エネルギー供給の確保、技術共有、日本のグローバルエネルギー市場における地位を維持するため、国際的な連帯を高める。



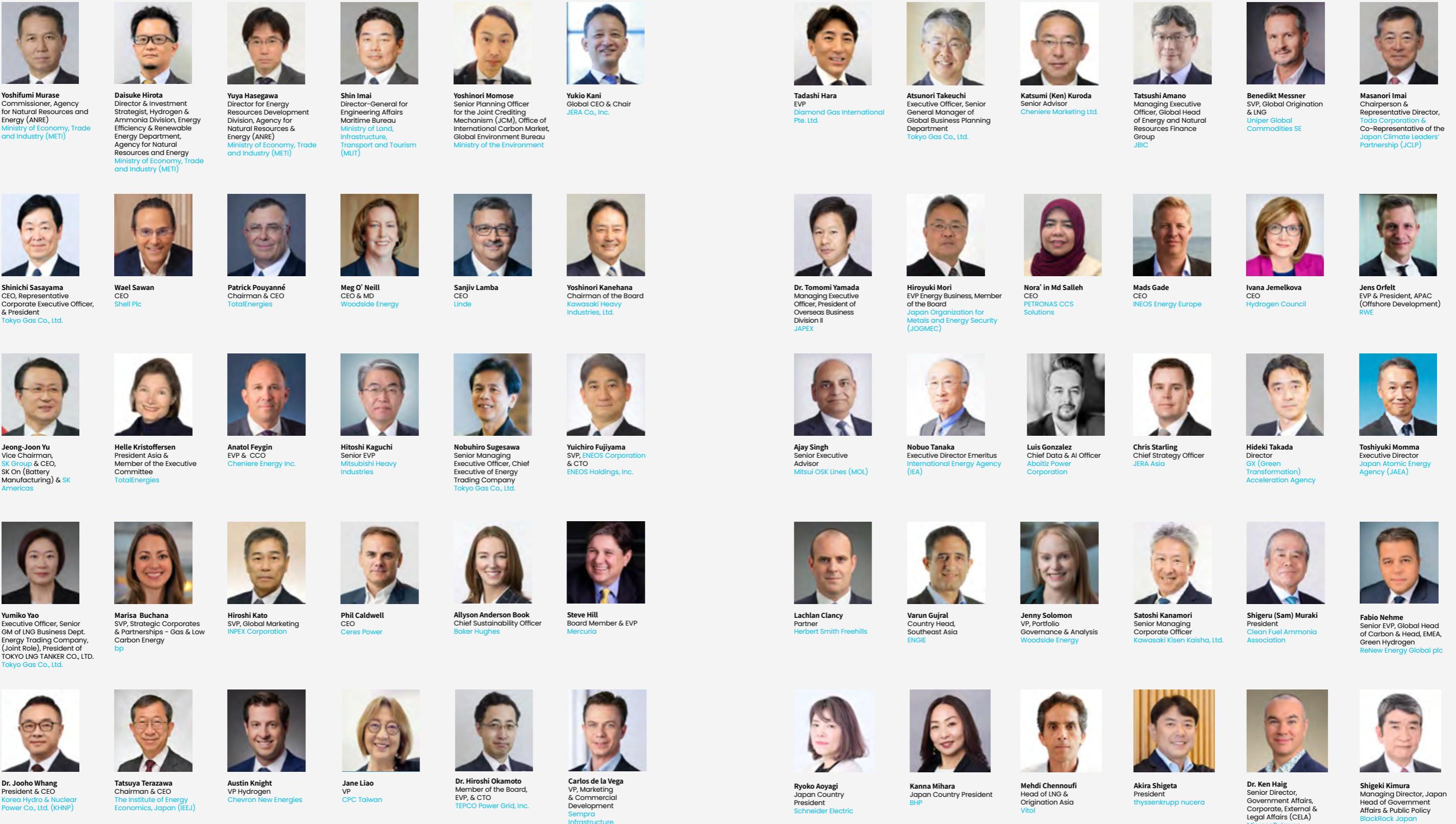
AI & デジタル化

脱炭素社会の実現に向けて、新しいデジタル技術の開発と商業化を進めます。

スポンサーシップに関するご相談は、以下までお問い合わせください

sales@japanenergyevent.com | +971 4 248 3252

過去に登壇した業界有識者(一例)：





Pathways
日本の水素市場の開拓
JAPAN ENERGY & EXPO

Ivana Jemelkova
CEO
Hydrogen Council

Sanjiv Lamba
CEO
Linde



Yoshinori Kanehara
Chairman of the Board
Kawasaki Heavy Industries, Ltd.

Yuichiro Fujiyama
SVP, ENEOS Corporation & CTO
ENEOS Holdings, Inc.

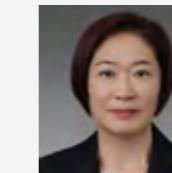
エグゼクティブ・ コミティー



Nobuo Tanaka
Executive Director Emeritus
International Energy Agency
(IEA)



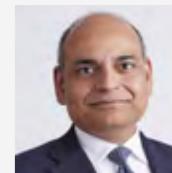
Hitoshi Nishizawa
SVP, LNG Division
JERA Inc.



Yumiko Yao
Executive Officer, Senior
General Manager of LNG
Business Dept. Energy
Trading Company, (Joint
Role) President of TOKYO
LNG TANKER CO., LTD.
Tokyo Gas Co., Ltd.



Shinya Naka
SVP, General Manager,
Environmental Energy Group
CEO Office
Mitsubishi Corporation



Ajay Singh
Senior Executive Advisor
MOL



Shigeru Muraki
Advisor
Clean Fuel Ammonia
Association



Katsumi (Ken) Kuroda
Senior Advisor
Cheniere Marketing Ltd



Dave Cooper
CEO
AGP DC Manager Pte Ltd.



Yasuji Ichinose
GM, Strategic Solution
& Incubation – Global
Business Development
Division
Chiyoda Corporation



Ken Ezuka
General Manager,
Corporate Strategy &
Planning Unit, Corporate
Strategy & Planning Division
INPEX Corporation



Kohei Toyoda
Director General for Energy
Transformation Strategy,
Energy and Natural
Resources Finance Group
Japan Bank for International
Cooperation (JBIC)



Alejandro Barbajosa
Research Specialist
ADNOC



Hiren Mehta
CCO (Green Hydrogen &
Ammonia)
Reliance Industries



Masami Takenaka
Senior General Manager,
Green Solution Project
Asahi Kasei



Momoyo Yuki
Head of Research &
Analysis, Overseas Carbon
Neutral Business Dept.,
Overseas Business Division II
Japan Petroleum
Exploration Co., Ltd.



Max Takahashi
Director and Managing
Executive Officer
Japan Marine Science Inc.



Yuriy Humber
Founder
Japan NRG



Mona Bhagat
CTO and CoFounder
Elemental Energies



Lachlan Clancy
Partner
Herbert Smith Freehills
Kramer



Hiroshi Nambo
Branch Representative –
Japan
Global CCS Institute



Tetsuro (Ted) Toyoda
Consultant
LNG Trading

ジャパン・エネルギー・サミットは、エネルギー転換に実際の変革をもたらすステークホルダーの皆様と共に築き上げられています。このたび、サミットのテーマや議題を方向づける役割を担っていただくエグゼクティブ・コミティーのメンバーとして、以下の皆様をお迎えすることとなりました。

ストラテジー サミット概要

サミットのアジェンダは、「エネルギー需要」「グリーントランスポーメーション(GX)」「エネルギー供給」「エネルギー協調」「エネルギーAI・デジタル化」という主要テーマを軸に綿密に構成されています。

各セッションはこれらの指針に沿って厳選されており、参加者は「エネルギー需給のバランス」「デジタル技術の活用」「国際的なパートナーシップの推進」「グリーン産業の成長促進」といった実践的な知見を得ることができます。

同時通訳サービスのご案内



会期中は同時通訳サービスをご利用いただけます。ご自身のモバイルデバイスから接続のうえ、イヤホンまたはヘッドフォンをご持参のうえご活用ください。

1日目 5月26日(火)	2日目 5月27日(水)	3日目 5月28日(木)
10.00 – 10.40 オープニングセレモニー 基調講演	10.00 – 10.40 リーダーシップ パネルディスカッション 東南アジアのガスインフラ転換期:LNG、パイプライン、新たな需要拠点の形成	10.00 – 10.40 リーダーシップ パネルディスカッション あらゆる規模の太陽光・風力:導入から商業化まで
10.40 – 11.20 閣僚級パネルディスカッション 分断された世界におけるエネルギー安全保障と外交	10.40 – 11.20 リーダーシップ パネルディスカッション LNGの大規模脱炭素化:経済性、タイムライン、市場への影響	10.40 – 11.20 リーダーシップ パネルディスカッション 知能を支える力:アジアにおけるAI成長のための手順でクリーンなエネルギーの確保
11.20 – 12.00 リーダーシップ パネルディスカッション 競合するビジョン:2035年までに世界のエネルギーシステムはどう進化するのか?	11.20 – 12.00 リーダーシップ パネルディスカッション ビジョンからバリューチェーンへ:日本と東南アジアの商業的CCUSエコシステム構築	11.20 – 12.00 リーダーシップ パネルディスカッション 導入から拡大へ:アジア産業の未来を支えるバイオ燃料-SAF・e-メタン
12.00 – 12.40 リーダーシップ パネルディスカッション 大規模なエネルギー転換:次のグローバルプロジェクトを実現する	12.00 – 12.40 リーダーシップ パネルディスカッション 日本のカーボン市場の進化:2026年までに自主的取組からコンプライアンスへ	12.00 – 12.40 スポットライト・ファイヤーサイドチャット 日本のGX移行を支える地域リーダーシップ:風力から半導体まで
12.40 – 13.20 リーダーシップ パネルディスカッション ビジョンから実現へ:日本の戦略的エネルギーの未来	12.40 – 13.20 ネットワーキング昼食会	12.40 – 13.20 ネットワーキング昼食会
13.20 – 14.00 ネットワーキング昼食会	13.20 – 14.00 リーダーシップ パネルディスカッション アンモニアの野望:日本の次なる大規模燃料サプライチェーン構築	13.20 – 14.00 リーダーシップ パネルディスカッション バッテリーと地政学:エネルギー安全保障と柔軟性確保に向けた蓄電戦略
14.00 – 14.40 リーダーシップ パネルディスカッション アジアのエネルギー未来におけるLNG:成長・安全保障・市場影響力	14.00 – 14.40 リーダーシップ パネルディスカッション 海運におけるクリーン燃料:LNG船から次世代船隊へ	14.00 – 14.40 リーダーシップ パネルディスカッション アジア連携を支える力:市場改革、送電網統合、そして日本の地域的役割
14.40 – 15.20 リーダーシップ パネルディスカッション 水素とアンモニアの大規模展開:バリューチェーンを実現可能な市場へ	14.40 – 15.20 リーダーシップ パネルディスカッション 日本のLNG取引の未来:新たな供給、新たな手法、新たな機会	14.40 – 15.20 リーダーシップ パネルディスカッション エネルギー転換の資金調達:アジアプロジェクトへの投資促進
15.20 – 16.00 リーダーシップ パネルディスカッション クラスターから競争力へ:燃料転換・インフラ・イノベーションによる重工業の変革	15.20 – 16.00 リーダーシップ パネルディスカッション 需要主導のエネルギー転換:エンドユーザーが形づくるエネルギー市場	15.20 – 16.00 リーダーシップ パネルディスカッション 炭素関税と貿易:グローバル市場での競争
16.00 – 16.40 リーダーシップ パネルディスカッション 未来への燃料供給:分断時代における上流戦略	16.00 – 16.40 リーダーシップ パネルディスカッション 原子力イノベーション:SMRの役割、公共の信頼、エネルギー安全保障	16.00 – 16.40 リーダーシップ パネルディスカッション 発電の未来:LNG・火力・再生可能エネルギーの調和とシステム強靭性
16.40 – 17.20 リーダーシップ パネルディスカッション インテリジェントエネルギー:強靭性と効率性を備えたシステム実現に向けたAIの活用	16.40 – 17.20 リーダーシップ パネルディスカッション 製油所の再発明:統合、効率性、脱炭素化	16.40 – 17.20 リーダーシップ パネルディスカッション 基盤の確立:エネルギー転換に不可欠な重要鉱物
17.20 – 18.00 リーダーシップ パネルディスカッション ユーティリティからシステム・オーケストレーターへ:都市電化のデジタル基盤を構築する	17.20 – 18.00 リーダーシップ パネルディスカッション エネルギー分野の女性:力、目的、アジアのエネルギー未来に向けた進展	17.20 – 17.30 議長による閉会の辞

*subject to change



1日目

5月26日(火)

グローバル戦略と日本のエネルギーの未来:政府・CEO・戦略リーダーによるビジョン

安全保障・外交・リーダーシップのビジョン

10.00 – 10.40

オープニングセレモニー

基調講演

10.40 – 11.20

閣僚級パネルディスカッション

分断された世界におけるエネルギー安全保障と外交

日本が更新された国別削減目標(NDC)を推進する中で、脱炭素化、エネルギー安全保障、そして経済レジリエンスの均衡はこれまでになく複雑さを増しています。地政学的な対立、分断されたサプライチェーン、変化する貿易アライアンスといった環境の中、アジア各国の政府は、野心的な気候目標の達成と同時に、信頼できるエネルギーシステムを確保しなければなりません。

日本の戦略では、エネルギー転換の中心に「外交」を据え、LNG、水素、アンモニア、原子力といった重要サプライラインを守るために、米国、ASEAN、中東とのパートナーシップを強化しつつ、国内では多様化とイノベーションを推進しています。

本セッションでは、各 government が協力、貿易、共通基準の構築を通じて、エネルギー安全保障をどのように再定義しているのかを議論します。また、カーボンニュートラルの追求が国家の安定と地域の成長を両立させるために、どのような政策的アプローチが必要なのかを探ります。

日本のNDC(国が決定する貢献)目標を、安定的で低炭素なエネルギー供給確保の政策とどのように統合しているのか。LNG、水素、クリーンテックの主導権をめぐって各国が競い合う中、エネルギー外交はどういうように進化しているのか。アジア地域は、インフラ、認証制度、カーボンプライシングなどで連携を深め、より強靭なレジリエンスを構築できるのか。

11.20 – 12.00

リーダーシップ パネルディスカッション

競合するビジョン:2035年までに世界のエネルギー系統はどう進化するのか?

世界のエネルギー系統は、地政学的な分断、気候変動への取り組み、貿易フローの変化、そして電化やAIによる需要の加速といった要素により、大きな変革期に突入しています。CEOたちは、ますます複雑化する安全保障上の圧力、投資制約、そして移行への要求に直面しています。LNG、クリーン水素、柔軟な火力供給は、クリーン電力の急速な拡大と並び、重要性を増しています。

今後の道筋は直線的ではありませんが、現実主義と野心を両立させ、国境やセクターを越えたパートナーシップを築く者が成果を収めるでしょう。

次のエネルギーサイクルにおいてリーダーシップを定義づける投資の優先事項は何でしょうか?CEOたちは、不安定な市場環境、政策の不確実性、そして高まる需要にどのように対応し、戦略を調整しているのでしょうか?成長、強靭性、地域協力における次なる機会はどこにあるのでしょうか?

参加者インサイト:

アジア各国の政策決定者が、気候変動対策への強い意欲と、現実的なエネルギー安全保障をいかに両立させているのかをご紹介します。地政学的风险が高まる中、各国が強化しているパートナーシップや政策、そして分断が進む世界でレジリエンスと競争力を確保するために必要な協力の在り方について議論します。

参加者インサイト:

エネルギー分野をリードする世界的CEO達が、複雑な状況をどう乗り越え、競争力を再定義し、エネルギー系統の長期的進化を形づくっているのかをご紹介します。



1日目

5月26日(火)

グローバル戦略と日本のエネルギーの未来:政府・CEO・戦略リーダーによるビジョン

安全保障・外交・リーダーシップのビジョン

12.00 – 12.40

リーダーシップ パネルディスカッション

大規模なエネルギー転換:次のグローバルプロジェクトを実現する

世界的なエネルギー移行の野心は、いまや大規模プロジェクトの実行という現実とぶつかり合っています。LNG、水素ハブから洋上風力群、CCUSネットワーク、大規模蓄電システムに至るまで、今後10年間はかつてない規模の資本投入、インフラ整備、そして国境を越えた協調が求められることになります。

しかしながら、コスト上昇、サプライチェーンの脆弱性、人材不足、そして認可手続きの遅延が、スケジュールと予算を脅かしています。変革的なプロジェクトを迅速かつ大規模に実行するためには、金融資金の動員、EPC能力の確保、そして規制の確実性が不可欠です。

エネルギー需要の高まりに追いつくため、世界のエネルギー企業はプロジェクト設計、契約、リスク配分をどのように見直しているのでしょうか? 大規模導入において最も投資適格性が高い地域や技術はどこでしょうか? 次の投資の波を阻むボトルネックを克服するために、産業界と政府はどのように協力できるのでしょうか?

参加者インサイト:

コスト、能力、そして協調の課題をいかに克服し、次のエネルギー移行のフェーズを定義づける旗艦プロジェクトを実現しているか、業界リーダーたちの取り組みをご紹介します。

12.40 – 13.20

リーダーシップ パネルディスカッション

ビジョンから実現へ:日本の戦略的エネルギーの未来

日本の第7次エネルギー基本計画は、エネルギー安全保障と脱炭素化の両立を図っています。信頼できる供給の基盤としてLNGを維持しつつ、再生可能エネルギー、水素、アンモニア、原子力、電化を拡大しています。現在の課題は、大規模な実行による実現です。長期脱炭素電源入札(LTDA)や差額決済契約(CfD)といった新たな仕組みが、LNG投資、送電網の強化、トランジション・ファイナンスと並行して導入され、収益性のあるプロジェクトを実現し、資本を呼び込む手段となっています。

同時に、シナリオプランニングが日本の政策プロセスの中心となりつつあり、変化する貿易パターンから破壊的技術に至るまで、多様な未来に対して現在の投資判断を強制なものにすることが求められています。すでに日本や近隣諸国は2050年以降を見据えており、議論は短期的な実行から、ポスト2050の道筋が地域全体の競争力、レジリエンス、脱炭素化をいかに形づくるかへと広がっています。

果たして、日本のエネルギーミックスにおける最優先の実行課題は何でしょうか? LTDAやCfD、その他の仕組みは、エネルギー安全保障と移行のバランスを取りつつ、いかに投資家の信頼を築くことができるのでしょうか? シナリオプランニングやポスト2050戦略は、今日の投資や規制の意思決定をどのように導くことができるのでしょうか?

参加者インサイト:

日本がビジョンから実行へと移行する取り組みを考察します。LNGの安全保障とクリーンエネルギーの成長、シナリオプランニング、ポスト2050戦略を組み合わせることで、収益性、レジリエンス、そして長期的な競争力をいかに強化できるのかを探ります。

13.20 – 14.00

ネットワーキング昼食会



1日目 5月26日(火)

グローバル戦略と日本のエネルギーの未来:政府・CEO・戦略リーダーによるビジョン

産業変革とデジタルシステム

14.00 – 14.40

リーダーシップ パネルディスカッション

アジアのエネルギー未来におけるLNG:成長・安全保障・市場影響力

アジアは依然として世界のLNG需要を牽引しており、既存の大口需要国と急成長する新興市場の双方が貿易フローを再構築しています。供給の脆弱性、エネルギー・ナショナリズム、気候への監視が強まる中で、地域の役割は柔軟な契約、近代化されたインフラ、低炭素型LNG貨物に依存することになります。

新規LNG供給が相次いで稼働するなか、市場は再び買い手有利へと傾きつつあり、ポートフォリオの見直しや、スポット・短期・長期契約の再調整が促されています。米国とカタールが将来の供給能力を主導する中で、供給集中リスクを管理すること、プロジェクト開発を脅かす地政学的不確実性に対応すること、多様な供給源の確保と経済競争力の両立を図ることは、地域のエネルギー安全保障にとってますます大きな課題となっています。

同時に、電力会社、トレーダー、政府は、新たなLNG供給源に対する買い手の需要を見極めつつ、パートナーシップを拡大し、市場ルールに影響を与えることで、世界のガス産業にとって極めて重要な局面における主導的役割を模索しています。

需要家は変化する供給状況や炭素規制にどのように対応しているのか?長期的な強靭性を実現するために最優先となるインフラは何か?アジアはいかにして市場影響力を活用し、LNGにおけるイノベーションと安定性を推進できるのか?

14.40 – 15.20

リーダーシップ パネルディスカッション

水素とアンモニアの大規模展開:バリューチェーンを実現可能な市場へ

水素とアンモニアは、パイロット段階から大規模導入へと移行しつつありますが、電力、海運、産業における需要は依然として商業的な確実性に欠けています。商業的な信頼を築くためには、輸送・貯蔵インフラへの共同投資、認証制度の調和、そして数十億ドル規模のサプライチェーンを支える銀行融資可能なオフティク契約が不可欠です。差額決済契約(CFD)はコストギャップを埋める補完的役割を果たすものの、現在の中心的課題は、国際的なパートナーシップと市場設計がフィージビリティ調査を超えて、コスト競争力、銀行融資可能な契約、予測可能な需要を実現できるかどうかにあります。

果たして、どの分野が水素とアンモニアの商業利用に最も近いのでしょうか。需要を喚起し、投資リスクを低減するために、どのような政策、価格制度、認証メカニズムが必要でしょうか。地域的および国際的な協力は、インフラ、基準、貿易フローをどのように調整し、市場形成を加速できるのでしょうか。欧州の補助金制度からどのような教訓を得られるのか、そしてその設計や実施をどのようにアジアの水素・アンモニア市場形成の加速に適用できるのでしょうか?

15.20 – 16.00

リーダーシップ パネルディスカッション

クラスターから競争力へ:燃料転換・インフラ・イノベーションによる重工業の変革

日本の産業変革は、中部、京浜、北九州などの主要産業拠点を、統合型のエネルギー・輸出ハブとして再構築できることであります。これらのクラスターは、鉄鋼、セメント、精製、輸送といった排出量の多い産業を集中させており、クリーン燃料、CCUS、省エネルギーのための共用インフラを拡大するユニークな機会を提供します。

しかし課題は脱炭素化にとどまりません。産業界は、コストや競争力を損なうことなく気候対応においてリーダーシップを發揮するよう、投資家、顧客、政策立案者からの圧力に直面しています。

本セッションでは、産業界とインフラ分野のリーダーが集結し、戦略的な燃料転換、セクター横断的なパートナーシップ、そして実現可能なファイナンスが、いかにコンプライアンスを競争優位へと転換しているのかを探ります。

脱炭素化が困難なセクターにおいて、最も実行可能な変革の道筋とは何でしょうか。日本の産業クラスターは、国内の脱炭素化と地域の輸出目標の双方にどのように貢献できるのでしょうか。そして、共用システムや国際的な接続への早期投資を促す官民の仕組みには、どのようなものがあるのでしょうか?

参加者インサイト:

LNGが高まる需要に応え、供給集中リスクや地政学的リスクを管理し、さらにイノベーション、レジリエンス、市場への影響力を通じて世界のガス市場の未来をいかに形づくっているかについて、アジア全域を見渡す戦略的な視点を得ることができます

1日目 5月26日(火)

産業変革とデジタルシステム

16.00 – 16.40

リーダーシップ パネルディスカッション

未来への燃料供給:分断時代における上流戦略

アジアにおいてLNGおよび低炭素燃料の需要が拡大し続ける中、上流投資は再び戦略的な必須課題となっています。しかし、その環境は大きく変化しています。地政学的分断、資本フローの変化、資源ナショナリズムの高まりが、アクセス、リスク、リターンのあり方を再定義しています。

日本をはじめ輸入依存度の高い経済にとって、将来の供給確保はもはや長期契約だけを意味するのではなく、上流でのパートナーシップ、資本参加、そして外交的な連携を含むものとなっています。米国やカタールから東南アジア、アラスカに至るまで、新たな供給源が稼働しつつあります。オフティク契約と資金調達をめぐる競争は一層激化しています。

上流生産者は、変化する投資家のセンチメントや地政学的リスクにどのように対応しているのでしょうか。日本は資本参加やオフティク契約を通じて、新たな供給の基盤を築く上でどのような役割を果たせるのでしょうか。エネルギー企業は、短期的な供給の安定性と長期的な移行戦略とのバランスをどのように取っているのでしょうか?

参加者インサイト:

進化を続ける世界の上流戦略を考察するとともに、分断化するエネルギー環境の中で、日本およびアジアが天然ガスや将来の燃料への長期的かつ安全なアクセスを確保するために取るべき施策を検討します。

16.40 – 17.20

リーダーシップ パネルディスカッション

インテリジェントエネルギー:強靭性と効率性を備えたシステム実現に向けたAIの活用

人工知能(AI)は、エネルギー分野全体で急速に概念段階から実装段階へと移行しています。LNG取引や発電所の運転最適化から、予知保全、送電網の柔軟性、デマンドレスポンス、カーボントラッキングに至るまで、その活用は広がっています。第7次エネルギー基本計画においてデジタル化を中心とした日本においても、AIは需要予測の高度化、再生可能エネルギーの統合、EV導入の支援、需要側管理の強化、システムコスト削減の道を拓きます。

世界的には、AIはすでに商品取引、資産最適化、顧客プラットフォームに活用されており、既存事業者と新規参入者の双方に新たな機会をもたらしています。しかし、課題も残されています。データ共有、サイバー・レジリエンス、人材の準備状況、規制の整合性といった要素が、この分野の発展の速度と範囲を左右することになるでしょう。

AIは、電力、LNG、再生可能エネルギーのバリューチェーン全体にわたり、需要側の柔軟性を含む新たな効率性の向上をどのように実現できるのでしょうか。日本は、AIによるグリッド管理、取引、排出削減の分野で先行するグローバルな事例からどのような教訓を得られるのでしょうか。AI導入が新たな脆弱性を生むことなくレジリエンスを高めるためには、どのようなセーフガードやガバナンスが必要となるのでしょうか?

参加者インサイト:

世界のエネルギーリーダーが、取引、送電網、デマンドレスポンス、顧客プラットフォームにおいてAIをどのように活用しているのか、そしてそれが日本の、よりスマートで強靭かつ低炭素なエネルギー・システムへの取り組みにどのような意味を持つのかをお伝えします。

17.20 – 18.00

リーダーシップ パネルディスカッション

ユーティリティからシステム・オーケストレーターへ:都市電化のデジタル基盤を構築する

都市、輸送、産業全体で電化が加速する中、電力会社はもはや受動的小売業者ではなく、未来のエネルギー・システムを統率する存在へと変貌しつつあります。単なる電力供給にとどまらず、分散型エネルギー資源の管理、スマートシティ基盤の整備、EV充電ネットワークの拡大にまで役割が広がっています。

この移行には、ダイナミックプライシングの活用、エネルギー多消費ユーザー集団間の消費バランスの調整、そして北海道と九州といった地域間の連系強化によるボトルネック解消と容量共有の実現が求められます。同時に、限られた送電容量や、電力供給とリアルタイム需要の統合といった課題に対して、デジタルプラットフォームやAI主導のインテリジェンスへの投資が急務となっています。

電力会社は、ダイナミックプライシングや統合サービスを含め、単なるコモディティ供給を超えて新たな価値を獲得するために、どのように事業モデルを再構築しているのでしょうか。地域間連系や都市部の電化クラスターにおける先進事例は、供給・需要・デジタルインテリジェンスがいかに同期できるかをどのように示しているのでしょうか。送電容量の拡大を実現し、電力会社が真のシステムオーケストレーターへと進化するために必要な規制や投資の枠組みとは何でしょうか?

参加者インサイト:

電力会社が、デジタル化・分散化したエネルギー環境における役割を再定義し、利用者・クラスター・地域を結ぶ統合的かつ知的なシステムを構築することで、電化バリューチェーン全体にわたり新たな価値を創出している様子を探ります。

Nobuhiro Sugisawa

Senior Managing Executive Officer,
Chief Executive of Energy Trading Company
Tokyo Gas Co., Ltd.

Steve Hill

Board Member & EVP
Mercuria

Varun Gujral

Country Head,
Southeast Asia
ENGIE



2日目 5月27日(水)

LNG・炭素・クリーン燃料:LNGをアジアのエネルギー・ミックスの基盤としつつ、炭素管理と新燃料の拡大を図る

LNGと炭素管理

10.00 – 10.40

リーダーシップ パネルディスカッション**東南アジアのガスインフラ転換期:LNG、パイプライン、新たな需要拠点の形成**

東南アジアは現在、ガスシステムの大きな転換期を迎えています。各国政府がLNG受入能力を急速に拡大する一方で、送電パイプライン、貯蔵設備、産業ネットワークの整備も進め、新たな需要創出に取り組んでいます。域内競争力の鍵を握るのは、発電所、産業団地、製油所、国境を越える経路を結ぶ長距離パイプラインから、浮体式・陸上の再ガス化設備まで、柔軟性と相互接続性を備えたガスインフラの構築です。

ペトナム、フィリピン、インドネシア、タイなどの国々がエネルギー安全保障、電力・産業コスト、脱炭素化のバランスを模索する中、投資家やオペレーターは、ミッドストリーム投資、規制の予見可能性、多様化したスケーラブルなガス市場におけるLNGの統合をめぐる重要な課題に直面しています。

東南アジアの市場は、LNG-to-Industry や LNG-to-Power インフラを迅速かつ大規模に展開するために、どのように民間資本を呼び込むべきか？

長距離パイプラインから柔軟な貯蔵・再ガス化設備まで、どのモデルが新たな需要拠点を最も効果的に支援するのか？クロスボーダー協力や標準化された枠組みは、供給の安定性を高め、急成長する国々のシステムコスト削減にどう貢献できるのか？

10.40 – 11.20

リーダーシップ パネルディスカッション**LNGの大規模脱炭素化:経済性、タイムライン、市場への影響**

LNGは依然としてアジアのエネルギー安全保障と競争力の要ですが、その長期的な信頼性はバリューチェーン全体における排出削減の加速にかかっています。上流でのメタン排出削減や液化プラントでのCCUS導入から、よりクリーンな海上輸送、排出量を透明化した取引に至るまで、業界は気候目標の厳格化に対応するために事業運営を再考しています。ライフサイクル全体のCO₂およびメタン排出を削減するための技術、政策、市場メカニズムが登場しており、同時にLNGインフラは将来的に水素、アンモニア、CO₂輸送の役割を担う可能性を備えています。今後10年間で、こうした削減はどこまで、どの程度のスピードで進むのでしょうか？投資1ドルあたりで最も大きな排出削減効果をもたらすのはどの分野でしょうか？そして、産業界と政府はどのように協力して、世界的な検証に耐えうる信頼できる基準を設定・測定・実施していくのでしょうか？

11.20 – 12.00

リーダーシップ パネルディスカッション**ビジョンからバリューチェーンへ:日本と東南アジアの商業的CCUSエコシステム構築**

日本はカーボンマネジメント戦略において決定的な局面に入りつつあり、環境省、JAPEX、JOGMECの主導のもと、国内初となるフルチェーンCCUSプロジェクトを始動しています。これらの取り組みは、産業クラスター、CO₂輸送、二国間の貯留協定に焦点を当てており、持続可能な国内および地域のカーボンバリューチェーン構築の基盤を築きつつあります。

同時に、東南アジアは日本の地域戦略における重要なパートナーとして浮上しており、シンガポール、サラワク、西ジャワにおけるCCUSハブが、貯留アクセスと投資機会を提供しています。

日本はいかに規制、インフラ、官民連携による資金調達を整合させ、大規模展開を実現できるのでしょうか。世界の先行事例から得られる教訓は、導入加速にどのように役立つのでしょうか。そして、日本とASEANはいかにして標準化、輸送ルート、パートナーシップを共同で構築し、投資可能な地域CCUSエコシステムを創り出せるのでしょうか？

参加者インサイト:

東南アジアが進める、LNGを軸とした次世代ガスインフラ開発について、再ガス化設備、貯蔵施設、パイプライン、そして今後成長が見込まれる産業・電力セクターの需要ハブまで、地域の長期的なエネルギー安全保障と投資動向を左右する主要テーマについて、実践的なインサイトを得ることができます。

参加者インサイト:

LNGのカーボンフットプリント削減におけるスピード、規模、経済性を理解し、クリーンエネルギー・ミックスにおける将来の位置付けを形成する戦略について学ぶことができます。

参加者インサイト:

アジア太平洋地域が、プロジェクト、インフラ、標準を結びつけることで、相互接続されたCCUS市場をどのように発展させ、大規模導入と新たな商業機会を推進していくのかを戦略的な視点から理解できます。

2日目 5月27日(水)

LNGと炭素管理

12.00 – 12.40

リーダーシップ パネルディスカッション**日本のカーボン市場の進化:2026年までに自主的取組からコンプライアンスへ**

日本のグリーントランジション排出量取引制度(GX-ETS)は決定的な局面を迎えており、2026年には自主的な枠組みから義務的な参加へと移行します。この移行により、数百の大規模排出事業者が制度に組み込まれることとなり、効果的な排出量取引を支えるために、強固なMRV(測定・報告・検証)システム、規制当局による監督、新たな市場インフラの整備が求められます。

企業にとって、この変化はカーボンコストを戦略に組み込み、排出削減の道筋に投資し、実効的なルール策定に向けた政策立案者と積極的に関与することを意味します。いま問われているのは、GX-ETSが遵守と競争力の両立を実現できるのか、そして日本の脱炭素・産業政策全体とどのように整合していくのかという点です。

GX-ETSが遵守段階へ移行する中で、企業の行動や投資判断はどのように変化しているのでしょうか。信頼性が高く流動性のあるカーボン市場を構築するにあたり、企業、投資家、規制当局にとってどのような課題や機会が生じるのでしょうか。そして、この遵守制度は、日本の気候政策および産業戦略全体とどのように統合され、ネットゼロへの道筋を支えていくのでしょうか？

参加者インサイト:

日本のカーボン市場が遵守型へと移行する流れを理解し、企業が2026年以降に向けて今何を準備すべきかを探ります。

12.40 – 13.20

ネットワーキング昼食会**クリーン燃料、需要、そして原子力**

13.20 – 14.00

リーダーシップ パネルディスカッション**アンモニアの野望:日本の次なる大規模燃料サプライチェーン構築****参加者インサイト:**

日本がいかに世界のアンモニア市場と結びつき、供給を確保し、貯蔵やバンカリング(船舶燃料供給)を拡大し、将来の貿易と産業脱炭素化を支えるパートナーシップを築いているのかをご紹介します。

クリーンアンモニアは、概念段階から商業的現実へと移行しており、日本は新たに形成されつつある世界市場において需要の中心的なハブとして位置づけられています。生産コストの低下、米国・中東・オーストラリア・中国における輸出拠点の台頭、そして海運や産業分野での利用拡大が、貿易フローを再構築しています。大規模な供給を確保するために、日本は長期オフティク契約、貯蔵やバンカリングへの投資、インフラ整備の協調を通じて、これらの世界市場と結びつく必要があります。認証制度、価格モデル、予測可能な需要シグナルは、生産者と需要家の双方に信頼を根付かせるために不可欠です。

グローバルな供給パートナーシップは、日本のエネルギー安全保障と産業の脱炭素化を確保する上でどのような役割を果たすのでしょうか。コスト動向や認証の枠組みは、調達や市場形成にどのような影響を与えるのでしょうか。輸入ターミナルからバンカリング、貯蔵に至るまで、レジリエントで国際的に接続されたアンモニアサプライチェーンを構築するために、どのようなインフラ整備が優先されるべきでしょうか？



2日目 5月27日(水)

LNG・炭素・クリーン燃料:LNGをアジアのエネルギー믹스の基盤としつつ、炭素管理と新燃料の拡大を図る

クリーン燃料、需要、そして原子力

14.00 – 14.40

リーダーシップ パネルディスカッション

海運におけるクリーン燃料:LNG船から次世代船隊へ

国際海事機関(IMO)および市場からの脱炭素化圧力が高まる中、日本はその移行においてリーダーシップを発揮しようとしています。現在の船隊の基盤を形成しているのはLNG船ですが、業界はいま、移行燃料としてLNGにさらに注力するのか、それともアンモニア、e-メタノールといったクリーンな代替燃料に早期移行するのかという難しい選択に直面しています。

日本は、アジア太平洋のパートナーと協力しながら、アンモニア対応エンジン、バンカリング拠点、パイロット回廊への投資を進めています。しかし、導入時期、コスト、商業リスクをめぐる課題は依然として残されています。

船主たちは、移行燃料としてのLNGの役割と、新たなクリーン燃料船への投資のバランスをどのように取っているのでしょうか。アンモニアやe-メタノールの早期採用を推進するのは、どの同盟、港湾、回廊なのでしょうか。日本の需要家、港湾、技術プロバイダーは、商業展開の加速にどのような役割を果たせるのでしょうか？

14.40 – 15.20

リーダーシップ パネルディスカッション

日本のLNG取引の未来:新たな供給、新たな手法、新たな機会

日本は依然として世界最大のLNG輸入国ですが、米国、カナダ、カタールからの新規供給の急増により、その取引ダイナミクスは大きく変化しつつあります。これらのプロジェクトと、日本が価格に敏感な基盤市場として位置づけられていることが相まって、市場の流動性の拡大や新たなデリバティブ商品の登場が進んでいます。

同時に、デジタルプラットフォーム、市場分析、排出量トラッキングツールの進展により、より透明性が高く柔軟な取引環境が整いつつあります。日本の買い手がポートフォリオの再構築を進める中、求められているのは単なる調達量の確保にとどまらず、アジアにおける次の段階のLNG価格発見とリスク管理の形を作り上げることです。

北米および中東からの新たな供給は、日本の取引戦略や契約形態をどのように変えるのでしょうか。日本のプレイヤーは、新たなベンチマーク、デリバティブ、カーボン連動型LNG商品の開発を推進する上でどのような役割を果たせらるのでしょうか。テクノロジー、データ、市場インテリジェンスツールは、LNG取引における流動性、透明性、排出トラッキングをどのように強化できるのでしょうか？

15.20 – 16.00

リーダーシップ パネルディスカッション

需要主導のエネルギー転換:エンドユーザーが形づくるエネルギー市場

エネルギー多消費型産業とデジタルプラットフォームが、新たな移行の推進力となりつつあります。鉄鋼、セメント、化学メーカーはCBAMやESG投資家からの圧力に直面する一方、データセンターや輸送分野では前例のない新たな需要が生まれています。

日本のエンドユーザーは単なる消費者ではなく共同投資者でもあり、PPA(電力購入契約)の締結、水素・アンモニアの実証、脱炭素化に向けたクローズドループシステムの構築に取り組んでいます。こうした選択が、新技術の拡大スピード、ファイナンスモデルの進化、競争力の定義を左右するのです。

日本のエネルギー多消費産業は、炭素コストや貿易関連の気候政策にどのように備えているのでしょうか。デジタル企業やテック企業は、新たなクリーンエネルギープロジェクトを促進する上でどのような役割を果たしているのでしょうか。政策、金融、パートナーシップは、需要主導の脱炭素化をどのように加速できるのでしょうか？

参加者インサイト:

日本のクリーン燃料戦略が、現在のLNG船の意思決定にどのような影響を与えており、そして次世代の世界的な船隊設計をどのように形づくっているのかを探ります。

参加者インサイト:

日本のLNGバイヤーとトレーダーが、新供給源とデジタル技術を活用し、市場流動性を拡大しつつ、東京を世界のLNG取引における主要拠点として確立しようとしている取り組みを考察します。

参加者インサイト:

産業界およびデジタル分野のエンドユーザーが、日本のGXにおいて中心的役割を担い、クリーン燃料・再生可能エネルギーの需要創出や、システム全体の移行を支えるファイナンスモデルの確立を探ります。



2日目 5月27日(水)

LNG・炭素・クリーン燃料:LNGをアジアのエネルギー믹스の基盤としつつ、炭素管理と新燃料の拡大を図る

クリーン燃料、需要、そして原子力

16.00 – 16.40

リーダーシップ パネルディスカッション

原子力イノベーション:SMRの役割、公共の信頼、エネルギー安全保障

日本の原子力セクターは新たな段階に入りつつあり、再稼働計画や先進炉の開発が進められています。小型モジュール炉(SMR)、次世代の安全機能、クリーン水素との統合などにより、その重要性は再び高まっています。しかし、国民の信頼、コストの確実性、国際協力は依然として進展を阻む課題です。日本の戦略は、イノベーションを透明性とレジリエンスと両立させる必要があります。

SMRや次世代設計は、日本の原子力ロードマップをどのように変革しているのでしょうか。国民および投資家の信頼を回復するために、どのような政策や戦略が取られているのでしょうか。日本は、原子力を強靭で多様化したクリーンエネルギー믹스の一部として、どのように位置付けることができるのでしょうか？

参加者インサイト:

イノベーション、安全性、そして国民の支持が、日本のエネルギーおよび気候目標における原子力の役割をどのように再定義しているのかについて理解を深めます。

16.40 – 17.20

リーダーシップ パネルディスカッション

製油所の再発明:統合、効率性、脱炭素化

日本の精製・石油化学セクターは転換点を迎えています。国内燃料需要の減少、排出削減に対する期待の高まり、そして激化する国際競争により、ダウンストリーム事業者はエネルギーシステムにおける役割を再考せざるを得なくなっています。

単に事業縮小や撤退を選ぶのではなく、日本の精製会社は、石油化学との統合、効率改善、クリーン水素や合成燃料(e-fuels)、循環型経済ソリューションの導入を模索しています。課題であり同時に機会でもあるのは、コモディティ燃料の供給者から、新たなエネルギー需要に対応した付加価値型産業プラットフォームへと転換することです。

日本の主要な精製事業者は、収益性と脱炭素化の両立のためにポートフォリオをどのように適応させているのでしょうか。SAF(持続可能な航空燃料)からケミカルリサイクルに至るまで、新たな収益源はどのようにレジリエンスを強化できるのでしょうか。製油所は、地域のクリーンエネルギー・エコシステムやイノベーション拠点の基盤として、どのような役割を果たせるのでしょうか？

参加者インサイト:

日本のダウンストリーム事業者が、従来の燃料供給者から統合型で将来を見据えた産業ハブへと進化し、競争力と気候目標の両立を実現している姿を学びます。

17.20 – 18.00

リーダーシップ パネルディスカッション

ウィメン・イン・エナジー:力、目的、アジアのエネルギー未来に向けた進展

アジアのエネルギー分野は世代交代ともいえる変革期を迎えており、外交、投資、イノベーション、規制の最前线で活躍する女性がますます増えています。本セッションは、政府、産業界、金融界で実績を持つ女性リーダーを招き、単なる「参画」の議論にとどまらず、「責任」をテーマとするハイレベルな対話の場です。

彼女たちは複雑さをいかに乗り越え、成果を形づくり、移行期におけるリーダーシップの在り方を定義しているのでしょうか。エネルギー分野における女性のリーダーシップはどのように変化しており、その影響は何でしょうか。ジェンダー平等は国家および企業のエネルギー戦略とどのように交差しているのでしょうか。そして、現在活躍するリーダーたちは、これからエネルギー分野に歩み出す次世代へどのような助言を送るのでしょうか？

参加者インサイト:

アジアのエネルギーの道筋に影響を与える女性たちから、インスピレーションと洞察を得ましょう。彼女たちのストーリーは、2026年以降のリーダーシップ、レジリエンス、そして新たな機会について多くの語っています。



3日目 5月28日(木)

技術・システム・国際競争力：日本のGXに向けたインフラ、ファイナンス、パートナーシップの構築

再生可能エネルギー、AI、そして地域GX

10.00 – 10.40

リーダーシップ パネルディスカッション

あらゆる規模の太陽光・風力：導入から商業化まで

東京の屋上から洋上風力発電所に至るまで、日本はあらゆるスケールで再生可能エネルギーの拡大を加速させています。屋上太陽光や分散型プロジェクトは、容量集約や都市部の排出削減の機会を生み出一方、洋上・陸上風力は、クリーンエネルギー基盤の拡大と産業競争力の強化に不可欠です。

しかし、単に導入を進めるだけでは十分ではありません。再生可能エネルギーを持続可能な投資対象とするためには、市場設計・収益の確実性・資金調達の仕組みを通じて、完全に商業化される必要があります。成功の鍵となるのは、迅速な許認可、デジタル集約、送電網の接続、強固なサプライチェーンに加え、PPA（電力購入契約）、グリーン証書、輸出機会を通じた明確な収益化の道筋です。

日本は、屋上・陸上・洋上プロジェクト全体で再生可能エネルギーを商業化するにあたり、いかにしてコスト効率を高めることができるのでしょうか。発電容量の拡大を収益性のある長期市場に転換するために、最も効果的な投資・資金調達・規制手段は何でしょうか。デジタルツール、集約モデル、そして企業需要は、再生可能エネルギーの商業的普及をどのように加速できるのでしょうか？

参加者インサイト：

日本が多様なスケールで再生可能エネルギーを拡大し、その展開を、競争力と持続的な強靭性を支える商業的に成立しうる投資可能な市場へと転換する方策を探ります。

10.40 – 11.20

リーダーシップパネルディスカッション

知能を支える力：アジアにおけるAI成長のための手頃でクリーンなエネルギーの確保

データセンター、クラウドサービス、先進的なコンピューティングの拡大により、日本およびアジアは喫緊の課題に直面しています。それは、脱炭素目標を達成することなく、また消費者や産業に持続不可能なコストを課すことなく、デジタル成長を支えるための豊富で信頼性が高く、低炭素な電力を確保することです。

このバランスを実現するためには、長期PPAの新設、送電網改修の加速、柔軟なLNGおよび原子力のバックストップ、再エネや系統連系における地域協力が求められます。同時に、価格設定や優先順位付けに関する難しい問い合わせも浮かび上がります。AIやデジタルインフラ向けの電力は、その戦略的価値を反映して別の価格体系とすべきか、それとも他の重要分野を圧迫しないように管理すべきでしょうか。

日本とアジアはいかにして急増するAIの電力需要と、気候・安全保障・経済性へのコミットメントを両立できるのでしょうか。クリーン電力プロジェクトや送電網強化のコストをAIの成長速度に合わせて低減するためには、どのような資金調達・政策枠組みが有効なのでしょうか。エネルギーはAIやデジタルサービス向けに異なる価格設定や優先供給が必要でしょうか。その場合、どのようなリスクが伴うのでしょうか。テクノロジー、エネルギー、政府の連携は、次世代のデジタルインテリジェンスを支えるために、いかに革新的で費用対効果の高いモデルを生み出せるのでしょうか？

参加者インサイト：

アジアがAIの成長を支えるために、豊富で低コストかつ低炭素の電力をどのように確保し、レジリエンス・競争力・持続可能性を基盤としたデジタル成長を実現していくのかについて理解を深めます

11.20 – 12.00

リーダーシップ パネルディスカッション

導入から拡大へ：アジア産業の未来を支えるバイオ燃料・SAF・e-メタン

アジアにおける輸送および産業エネルギー需要が拡大する中で、バイオ燃料、持続可能な航空燃料(SAF)、合成e-メタンといったドロップイン燃料は、実効的な脱炭素化を実現するための重要な手段として浮上しています。域内では、生産者、政策立案者、エンドユーザーが協力し、パートナーシップの強化、認証基準の策定、そして低炭素燃料の電化困難な分野への統合を進めています。

現在の課題は、供給網の拡大、原料供給の確保、コスト競争力の確立により、増大する需要に対応することです。技術コストの低下と国際的関心の高まりを背景に、これらの燃料は、レジリエントで輸出可能かつ柔軟なエネルギーの未来を支える基盤となる可能性を秘めています。

導入を加速させつつ、地域の生産・流通ネットワークをどのように構築できるのでしょうか。原料確保、価格インセンティブ、インフラ投資を推進する上で、公共政策や通商外交はどのような役割を果たせるのでしょうか。アジアは、エネルギー安全保障と産業成長を同時に支える、競争力があり拡張可能な低炭素燃料エコシステムを構築できるのでしょうか？

参加者インサイト：

越境的な協力、投資、政策革新が、ドロップイン燃料をアジアの産業および輸送分野の脱炭素化に向けた拡張可能な解決策へと進化させている現状を探ります。



3日目 5月28日(木)

技術・システム・国際競争力：日本のGXに向けたインフラ、ファイナンス、パートナーシップの構築

再生可能エネルギー、AI、そして地域GX

12.00 – 12.40

スポットライト・ファイヤーサイドチャット

日本のGX移行を支える地域リーダーシップ：風力から半導体まで

日本の地方自治体は、グリーントランジション(GX)の重要な推進役として注目を集めています。北海道では、大規模な風力・再生可能エネルギー開発が進み、同地域を将来のクリーンエネルギー拠点として位置づけています。札幌は、都市レベルの戦略を低炭素インフラや技術への投資と結びつけ、グリーンハブとして台頭しています。九州では、AI、半導体、データセンター関連プロジェクトが進展し、電力集約型のイノベーションクラスターが形成されつつあります。新たな電力調達、効率化、レジリエンスマネジメントの確立が求められています。

日本の地方自治体は、GXを成功に導くためにどのように政策やインフラ環境を整備しているのでしょうか。民間企業は、地域の優先課題と国家戦略を両立させるプロジェクトの拡大にどのように貢献できるのでしょうか。北海道、札幌、九州の事例から得られる教訓は、他地域にどのように応用・展開でき、経済とエネルギーの変革を加速できるのでしょうか？

参加者インサイト：

北海道の再生可能エネルギーから九州のデジタル・産業拠点まで、地方自治体リーダーと企業パートナーが現場でどのようにGXの実現を形づくっているのかについて、独自の視点を得ることができます。

12.40 – 13.20

ネットワーキング昼食会

ファイナンス・送電網・国際取引

13.20 – 14.00

リーダーシップ パネルディスカッション

バッテリーと地政学：エネルギー安全保障と柔軟性確保に向けた蓄電戦略

エネルギー貯蔵は、再生可能エネルギーの統合、グリッドの柔軟性、ピーク需要管理を可能にする重要な要素となっていますが、同時に戦略的な脆弱性としても浮上しています。各國が太陽光・風力・電化を加速する中、バッテリーの導入は地政学的現実に大きく左右されます。すなわち、重要鉱物の供給リスク、少数の国に集中する製造能力、そして主要技術に対する輸出規制の強化です。

日本では、長期脱炭素電源オーケーション(LTDA)が、バッテリーエネルギー貯蔵システム(BESS)に安定性と投資可能性をもたらす重要な役割を果たしており、長期的な収益の見通しを提供し、蓄電を国内・地域の電力市場に統合することを後押ししています。このモデルは、政策と市場設計が商業的な信頼性を支えるとともに、グリッドレベルでのレジリエンスを強化することを示しています。

強固な蓄電エコシステムの構築には、技術革新だけでなく、産業政策の連携、システムレベルでの計画、そして強力な国際パートナーシップが不可欠です。異なる電力システムや地域において、どの蓄電技術が最も商業的に実行可能なのでしょうか。政府、LTDA、企業は、バッテリーサプライチェーンにおける地政学的リスクにどのように対応しているのでしょうか。展開を加速しつつ、レジリエンスと地域協力を強化するために、どのような政策手段や投資戦略が有効なのでしょうか？

参加者インサイト：

日本のLTDA制度に支えられた蓄電が、再生可能エネルギーとのバランスを取り、グリッドの信頼性を高め、地政学的競争の時代におけるエネルギー安全保障を守るために、いかに拡大できるのかを探ります。



3日目 5月28日(木)

技術・システム・国際競争力：日本のGXに向けたインフラ、ファイナンス、パートナーシップの構築

ファイナンス・送電網・国際取引

14.00 – 14.40

リーダーシップ パネルディスカッション

アジア連携を支える力：市場改革、送電網統合、そして日本の地域的役割

電力需要が高まり、システムの脱炭素化が進む中、市場改革はもはや国内課題にとどまらず、地域全体にとつて不可欠なテーマとなっています。日本の自由化、需給調整市場、発送電分離の経験は、電力部門の近代化を目指す近隣諸国にとって重要な参考点となります。

同時に、HVDC（高電圧直流送電）リンクから需給調整サービスの共有に至るまで、地域的な送電網統合の拡大は、エネルギー安全保障の強化、コスト削減、変動型再生可能エネルギーの導入促進に大きな可能性をもたらします。しかしながら、政策の整合性、規制の相互運用性、投資インセンティブには依然としてばらつきが残っています。

日本はいかにしてアジア全体における連続性と競争力を備えた電力市場の形成に貢献できるのでしょうか。日本の電力自由化や需給調整改革からどのような教訓が得られるのでしょうか。そして、国境を越えた取引とシステムのレジリエンスを実現するために、どのような新しい協調モデルが考えられるのでしょうか。

14.40 – 15.20

リーダーシップ パネルディスカッション

エネルギー転換の資金調達：アジアプロジェクトへの投資促進

コスト上昇、政策の不透明性、地政学的分断により、アジアにおけるエネルギープロジェクトの資金調達と実施のあり方が大きく変化しています。クリーン燃料、CCUS、送電網改修、産業の脱炭素化など、大規模投資の必要性が高まる一方で、開発者やプロジェクト所有者にとって資本の確保はこれまで以上に複雑になっています。

日本の官民双方の金融エコシステムは、投資リスクの低減、混合資本の動員、商業規模での展開を支える金融スキームの構築に向けて連携することが求められています。開発者は、トランジションボンド、輸出信用、政府保証といった進化しつつある手段をどのように活用できるのでしょうか。国境や技術をまたぐリスクを管理する上で、最も効果的なアプローチとは何でしょうか。日本の金融機関は、地域におけるエネルギー移行の実現を加速するために、どのような役割を果たせるのでしょうか。

15.20 – 16.00

リーダーシップ パネルディスカッション

炭素関税と貿易：グローバル市場での競争

日本の国内制度を超えて、カーボン政策は今や世界貿易における決定的要因となりつつあります。EUのCBAM、米国のカーボンタリフ、そしてアジア各国で進化する制度に至るまで、排出データや製品基準が市場アクセスや産業競争力を左右する時代です。中国の全国ETS、韓国の既存カーボン市場、インドのパイロット取引制度は、アジアにおける変化の速さを示しており、各地域の政策がどのように相互作用し、収斂していくのかが問われています。

日本の輸出企業にとって、GX-ETSへの国内対応と同様に、これら国際的な枠組みへの整合は極めて重要です。課題は単なる遵守にとどまらず、国際基準の策定、市場ルールの交渉、そして東アジアにおけるカーボンプライシングの将来に日本がどのように位置づけられるかという点にあります。

アジア、欧州、米国においてETS制度はどのように進化しており、日本はそこからどのような教訓を得られるのでしょうか。日本のGX-ETSは、競争力と市場アクセスを守るために、どのようにグローバルかつ地域的の文脈に組み込まれるべきでしょうか。東アジアは、カーボンプライシング、基準、そして貿易運動型気候政策の将来を形づくる上で、どのような役割を果たすのでしょうか。

3日目 5月28日(木)

ファイナンス・送電網・国際取引

16.00 – 16.40

リーダーシップ パネルディスカッション

発電の未来：LNG・火力・再生可能エネルギーの調和とシステム強靭性

アジアは世界のエネルギー転換の中心に位置しており、世界全体の排出量とエネルギー需要の約半分を占めています。地域が直面する課題は極めて深刻であり、電力部門の排出量の90%以上を占める石炭の削減を進めつつ、電化・産業・AI主導の成長によって急増する電力需要を満たさなければなりません。

再生可能エネルギーが転換の主軸となる一方、石炭からクリーンエネルギーへの移行を実現し、システムの安定性を確保するためには、ガスや柔軟な火力も依然として重要です。蓄電、デジタルグリッド、地域間連系の進展は、容量導入のあり方を再定義することになりますが、そのアプローチは各國の出発点や優先事項を反映したものである必要があります。

求められるのは単に需要を満たすことではなく、排出を削減し、エネルギーを競争力の源泉とする豊富で強靭な電力システムを構築することです。投資と規制は、信頼性と経済性を維持しながら石炭削減をいかに加速できるのでしょうか。輸出可能なクリーン電力を創出し、LNGと並行して再生可能エネルギーを拡大するためには、どのようなモデルが有効でしょうか。多様な各国戦略をいかにして積み重ね、アジア全体で意味のある排出削減を実現できるのでしょうか。

参加者インサイト：

アジアが再生可能エネルギー、LNG、火力発電のバランスを取り、レジリエンス、経済性、排出削減を実現しつつ、経済成長の基盤となる豊富なエネルギー供給を確保する方法を理解します。

16.40 – 17.20

リーダーシップ パネルディスカッション

基盤の確立：エネルギー転換に不可欠な重要鉱物

銅やリチウムからレアアースに至るまで、重要鉱物は電池や風力タービン、送電インフラ、EVに至るエネルギー転換のあらゆる柱を支えています。しかし、そのサプライチェーンは依然として集中しており、地政学的リスクや環境面での懸念にさらされています。需要予測が急増する中、これら資源をめぐる国際競争は激化しており、一方で認可の遅れ、ESG監視、輸出規制が供給の安定性を脅かしています。

現在の課題は、コスト・持続可能性・国家安全保障のバランスを取りながら、信頼性が高く多様化されたサプライチェーンを確保することです。各國政府と企業はどのように連携して供給源を多様化し、精錬・加工能力への投資を進められるのでしょうか。供給ショックを緩和するために、どのような貿易、関税、備蓄戦略が有効なのでしょうか。リサイクルや循環型経済のアプローチは、長期的な新規探掘への依存をどのように減らせるのでしょうか。

参加者インサイト：

重要鉱物のサプライチェーンがどのように進化しているのか、また、アクセス確保・リスク管理・クリーンエネルギー技術の大規模導入を可能にするために必要な戦略を探ります。

17.20 – 17.30

議長による閉会の辞

リードするエネルギー企業による、今後はエネルギーの収益構成がさらに多様化すること 予想されま



テクニカル・ カンファレンス

テクニカル・カンファレンスは、エンジニア、研究者、技術専門家が、安全で低炭素かつデジタル化されたエネルギーの未来を形作る応用ソリューションや最先端のイノベーションを発表するプラットフォームです。

世界的な業界リーダーによるテクニカル・コミッティが厳選したプログラムには、厳格なピアレビューを通過した論文や実際の事例研究、技術デモンストレーションが含まれ、具体的な成果の創出に焦点を当てています。

主なテーマには、AIによるエネルギー最適化、CCUS(炭素回収・利用・貯留)の導入、蓄電技術、次世代原子力システム、電力インフラの近代化、水素・アンモニア関連インフラの拡充などが含まれます。

実用性と市場適合性に重点を置いたテクニカル・カンファレンスでは、世界の先進技術と地域が抱える課題を結びつけることで、日本のエネルギー転換を支えるとともに、アジア太平洋全体の脱炭素化とエネルギー安全保障の実現に貢献します。

技術力が実行力に結びつく場であり、技術的卓越性、イノベーション、そして異業種連携による前進を促します。

同時通訳サービスのご案内



会期中は同時通訳サービスをご利用いただけます。ご自身のモバイルデバイスから接続のうえ、イヤホンまたはヘッドフォンをご持参のうえご活用ください。

スポンサーシップに関するご相談は、以下までお問い合わせください

sales@japanenergyevent.com
+971 4 248 3252

テクニカル・カンファレンス カタゴリ

天然ガス&LNG

- ・新規プロジェクト、ファイナンスおよび建設
- ・製造工程での脱炭素化
- ・メタンおよび炭素マネジメント
- ・購買および契約戦略
- ・LNGターミナルとインフラ

水素

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

アンモニア

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

二酸化炭素の回収・利用・貯留(CCUS)

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

エネルギー効率・脱炭素化

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

バイオ燃料・代替燃料

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

クライメートテック・再生可能エネルギー

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

輸送、貯蔵、インフラ

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

グリッド、ユーティリティ、発電

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

AIとデジタルトランスフォーメーション(DX)

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

健康、安全、セキュリティおよび環境

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

原子力発電

- ・製造プロセスの脱炭素化
- ・安全性と規制
- ・新生産手法
- ・最終用途
- ・貯蔵、輸送とインフラ

テクニカル アブストラ(要旨) 提出の意義

ジャパン・エネルギー・サミット テクニカル・カンファレンスは、急速に成長するアジアのエネルギー転換分野において、技術の専門家や経営層が登壇できるまたとない機会を提供します。

提出された要旨は、エネルギー分野の第一線で活躍する専門家による査読を経て、内容の質と関連性を確認のうえ選定されます。

採択された場合は、ジャパン・エネルギー・サミット テクニカル・カンファレンスでご登壇いただけます。これにより、以下のような貴重な機会が得られます：

共有

世界規模のイベントで知識と経験を業界に共有する

変革

ネットゼロの未来を目指すエネルギー業界に貢献する

ネットワーク

1万人を超えるグローバルなエネルギー専門家とつながる

重要日程

2025年10月7日

CFP提出受付開始

2025年12月12日

技術委員会審査期間

2025年12月12日

応募締切

2026年1月16日

審査期間終了

アブストラクト提出(要旨作成)ガイド

応募書類を準備する際には、下記の要旨作成ガイドをご活用ください。提出期限は2025年11月28日までです。

内容

アブストラクト(要旨)のタイトルは、発表内容の主要なテーマを50語以内で簡潔かつ正確に示してください。要旨本文は500語以内とし、英語または日本語で作成してください。他の言語での提出は審査対象外となります。

要旨には以下を含めてください：

- ・ 研究の範囲と背景の要約
- ・ 想定される応用や意義
- ・ 結果および主要な結論、その分野における先行研究との差異

技術委員会の理解を深めるため、図表・グラフ・イラスト・表などを適宜用いてください。なお、キャプションやデータ理解に必要な補足情報は語数制限に含まれません。

発表者

要旨には発表者プロフィールを添付する必要があります。

各発表には発表者は1名のみとします。すべての発表者には、テクニカル・カンファレンス3日間すべてのセッションへの無料アクセスが付与されます。ただし、共同執筆者が参加を希望する場合は、別途参加パスをご購入いただく必要があります。

発表者候補は、ライブかつインタラクティブな場で国際的な聴衆に対して効果的に情報を伝えられる優れた話者であることが求められます。

カテゴリ

カテゴリおよびサブカテゴリ一覧を利用し、アブストラクト(要旨)のテーマに最も適したものを選択してください。

同一の要旨を複数回提出することはご遠慮ください。複数のカテゴリに関連するとお考えの場合は、最も適切と思われるカテゴリを一つ選択してください。

1名の方が同一カテゴリ内または複数カテゴリにわたり複数の要旨を提出することは可能ですが、ただし、同一または類似した要旨を複数回提出することはできません。重複した提出は削除されます。

また、他の会議で既に発表した要旨であっても、ジャパン・エネルギー・サミット テクニカル・カンファレンスへの提出は可能です。ただし、その際には過去にいつ・どこで発表したかの詳細を記載いただき、初回発表以降に更新された内容を含めてください。

社内での承認

要旨を提出する前に、必ず社内の承認を取得してください。承認に関して問題がある場合は、要旨提出時に明記してください。

主催者は、ジャパン・エネルギー・サミット テクニカル・カンファレンスにおける登壇に関する費用について一切の責任を負いません。発表者は、渡航・宿泊を含む必要な手配を各自で行っていただく必要があります。

商業的表現について

アブストラクト(要旨)のタイトル、本文、添付資料において、過度に商業的な表現を使用しないようご注意ください。商業的な表現が含まれる場合、技術委員会による審査対象となり、評価プロセスから除外される可能性があります。

アブストラクト(要旨)のご提出はこちら:

www.japanenergyevent.com/ja/cfp

エグゼクティブ向け 特別プログラム



ジャパン・エネルギー・クラブ

ジャパン・エネルギー・クラブは、ジャパン・エネルギー・サミットの中心に位置する、限定されたホスピタリティおよびビジネスネットワーキングの専用スイートです。

戦略的な議論と価値ある交流を促進するために設計されたエネルギークラブは、シニアエネルギーリーダー、イノベーター、投資家、政策担当者がプライベートかつビジネスに集中できる環境で交流できる、プレミアムな場を提供します。



リーダーシップ・ラウンドテーブル

エネルギークラブでは、世界のエネルギーバリューチェーンを代表する有力企業が一堂に会し、会議の内容は口外しないというルールの下で開催される招待制のリーダーシップ・ラウンドテーブルが開催されます。

これらのラウンドテーブルは、シニアエネルギーリーダーが集い、業界が直面する最重要課題について、深い洞察と建設的な意見交換を行うための場として機能します。



ウェルカム・レセプション

ウェルカム・レセプションは、ジャパン・エネルギー・サミットの開幕を華やかに飾る特別な催しであり、本イベントの開幕を記念し、格調高く洗練されたひとときをお届けいたします。

リーダーシップラウンドテーブル

2026年5月26日(火)

12:30 - 14:00

リーダーシップ・ラウンドテーブル 1

アジアのエネルギー転換におけるLNGの将来を確保する

LNGは依然としてアジアのエネルギー安全保障の要であり、日本は世界最大の輸入国として、国際的な契約戦略の指標的存在となっています。しかしこの分野は、欧州との競争、世界市場の変動、そしてCCS（炭素回収・貯留）、メタン排出削減、認証制度などによるサプライチェーンの脱炭素化という新たな課題に直面しています。米国やカタールの新規プロジェクトは貿易構造を変化させており、日本の購入者は、不確実な需要見通しを踏まえ、長期契約と短期・柔軟契約のバランスを取り必要な必要があります。課題は、LNGがどのようにして日本のエネルギー転換における中心的役割を維持しつつ、コストの抑制、安全保障、そして低炭素化を実現できるかという点です。

参加者インサイト: LNGの購入者および生産者が、エネルギー安全保障、排出削減、新たな供給源の確保をどのように両立させ、将来にわたって持続可能なポートフォリオを構築しているかを明らかにします。

2026年5月26日(火)

14:00 - 15:30

リーダーシップ・ラウンドテーブル 2

AIとインテリジェント・エネルギー・システム: 成長とレジリエンスの両立

デジタル化とAIは、発電所における予知保全からAIによる取引・需要予測に至るまで、エネルギー・システムの構造を大きく変革しています。日本の電力会社や送電事業者もこうした技術の導入を進めていますが、サイバー・レジリエンス、ガバナンス、コスト効率といった課題が依然として存在します。エネルギー・システムがより複雑かつ分散化する中で、デジタルソリューションはレジリエンスの維持、新たな収益機会の創出、投資最適化の鍵となります。課題は、日本がAIとデジタル化をどのように活用しつつ、強固なガバナンスと社会的信頼を確保できるかという点です。

参加者インサイト: アジア各国でAIがどのように導入され、よりスマートでレジリエント、かつ効率的なエネルギー・システムを実現しているかを理解します。

2026年5月26日(火)

16:30 - 18:00

リーダーシップ・ラウンドテーブル 3

大規模水素・アンモニア: 戰略からシステム統合へ

水素とアンモニアは、戦略文書の段階から実証プロジェクトへと移行しつつありますが、現在の課題はスケールアップと、これらの燃料を日本のエネルギー・システムに統合することにあります。発電、海運、産業用途での実証が進められていますが、商業化の鍵を握るのは、インフラ投資、国際的な輸送ルート、そして統一された認証制度の整備です。日本の商社や電力会社は国際的なパートナーシップの最前線に立っていますが、安定した需要と確実な政策枠組みがなければ、プロジェクトの経済性は依然として脆弱です。その成果は、日本がグローバルに競争力のある水素・アンモニアのバリューチェーンを確立できるかどうかを左右するでしょう。

参加者インサイト: 世界および日本の主要企業が、パートナーシップ、インフラ整備、標準化を通じて、水素・アンモニアを戦略段階から商業段階へどのように発展させているかを理解します。

2026年5月27日(水)

10:00 - 11:30

リーダーシップ・ラウンドテーブル 4

大規模実現への道: アジアのエネルギー・プロジェクトにおけるボトルネック克服

戦略から実行への移行に伴い、アジア全域のエネルギー・プロジェクトではさまざまなボトルネックが顕在化しています。EPC請負業者はコスト上昇、人材不足、サプライチェーンのリスクに直面しており、開発事業者は長期化する許認可プロセスや複雑な契約モデルに苦しんでいます。このままでは、水素、LNG、再生可能エネルギーといった重要プロジェクトの進行が遅れる恐れがあります。こうした課題を乗り越えるためには、プロジェクト設計、資金調達スキーム、官民連携（PPP）における新たなイノベーションが不可欠です。大規模インフラを迅速に実現するための変革が求められています。

参加者インサイト: EPC、デベロッパー、投資家がコスト上昇やサプライチェーンの課題に対応しながら、いかにスピードとスケールを両立してメガプロジェクトを実現しているかを学びます。

2026年5月27日(水)

12:30 - 14:00

リーダーシップ・ラウンドテーブル 5

日本およびアジアにおける商業的CCUSエコシステムの構築

二酸化炭素の回収・利用・貯留（CCUS）は、日本においてパイロット段階から商業規模へと移行しつつあります。国内の大手石油・ガス企業が中心となり、アジア各地の排出源と貯留拠点を結ぶ取り組みを進めています。その潜在的なビジネス機会は非常に大きい一方で、課題も少なくありません。責任範囲を明確にする制度の確立、CO₂の越境輸送の拡大、炭素価格やクレジットを活用した収益モデルの構築などが挙げられます。日本にとってCCUSは単なる脱炭素化の手段ではなく、産業基盤と地域連携を活かした戦略的な成長領域もあります。成功の鍵は、排出事業者・輸送事業者・貯留事業者をつなぐ「フルチェーン型エコシステム」をいかに構築できるかにあります。

参加者インサイト: アジア太平洋地域がどのようにプロジェクト、輸送、基準を連携させたCCUS市場を形成できるかについての戦略的見解を得ます。

2026年5月27日(水)

15:00 - 16:30

リーダーシップ・ラウンドテーブル 6

外交と貿易を通じたエネルギー安全保障

世界的なエネルギー競争が激化する中、外交はサプライチェーンの確保とエネルギー安全保障の要として重要な役割を果たしています。日本にとっては、LNG輸出国や水素・アンモニアのパートナー企業、再生可能エネルギー技術の供給者との関係強化が、供給源の多様化とコスト安定化のために不可欠です。さらに、各国の通商使節団や大使館は、炭素基準、持続可能性指標、投資枠組みの交渉の最前線に立っています。こうした外交関係は、日本の将来のエネルギー・ミックス、そして地域および国際的な協調関係における日本の役割を形づくる上で極めて重要です。

参加者インサイト: 各国政府や通商使節団が、外交と二国間協力を通じてどのように安全で強靭なエネルギーの未来を築いているかを理解します。



2026年5月28日(木)

10:00 – 11:30

リーダーシップ・ラウンドテーブル 7
カーボンプライシング、ファイナンス、そして競争力

日本のGX-ETS(グリーントランスマーケット排出取引制度)は、まもなく任意制度から義務制度へと移行し、電力・重工業・金融機関における投資環境を大きく変革しようとしています。同時に、EUのCBAM(炭素国境調整メカニズム)などの国際的な制度により、輸出企業は製品に内包される炭素量を考慮する必要に迫られています。これはリスクであると同時にチャンスでもあります。早期にカーボン市場やグリーンファイナンスの仕組みに対応する企業は競争優位性を獲得できる一方で、対応が遅れる企業は国際市場へのアクセスを失うリスクを抱えます。国際基準と整合し、信頼性の高い透明で流動性のあるカーボンプライシング制度を構築することが、日本がグリーン資本を呼び込むための鍵となります。

参加者インサイト: カーボンプライシング、ファイナンス、そして規制がどのように競争力を再構築し、新たな投資機会を生み出しているかを理解します。

2026年5月28日(木)

12:30 – 14:00

リーダーシップ・ラウンドテーブル 8
日本の産業クラスター変革による競争力強化

日本の鉄鋼、セメント、石油化学分野は、国内排出量の大部分を占めており、投資家や国際的な貿易制度からの圧力が高まっています。中部や京浜などの産業クラスターでは、水素・アンモニア・CCUS(炭素回収・利用・貯留)に関する共同インフラの導入が進められており、コスト削減と導入加速が図られています。課題は、こうしたクラスターが環境性能の向上だけでなく、国際競争力の維持・強化にもつながるようにすることです。サプライチェーン全体にわたる戦略的パートナーシップと、政府による支援的な政策が結果を左右する重要な要素となります。

参加者インサイト: 重工業がクリーン燃料と共同インフラを活用し、「規制対応」から「競争力強化」へどのように移行しているかを理解します。

2026年5月28日(木)

15:00 – 16:30

リーダーシップ・ラウンドテーブル 9
導入から商業化へ:日本のGXに向けた再生可能エネルギー拡大

日本は「グリーントランスマーケット(GX)」戦略のもと、洋上風力および太陽光発電において野心的な目標を掲げています。しかし、重要なのは単に発電容量(メガワット数)を増やすことではなく、事業を商業的に成立させ、送電網に適応させ、財務的に持続可能にすることです。コストの上昇、許認可の遅れ、地域住民の理解と受け入れの課題が導入スピードを鈍化させる恐れがあります。一方で、デジタル集約やデマンドレスポンスの活用により、再生可能エネルギーをより効率的に電力システムへ統合することが可能です。政策主導の導入段階から、市場主導の商業化段階へと移行できるかどうかが、日本が世界のクリーンエネルギー競争において競争力を維持できるかを左右します。

参加者インサイト: 日本が再生可能エネルギーを競争力とレンジを支える、商業的に成立する投資可能な市場へどのように拡大できるかを探ります。

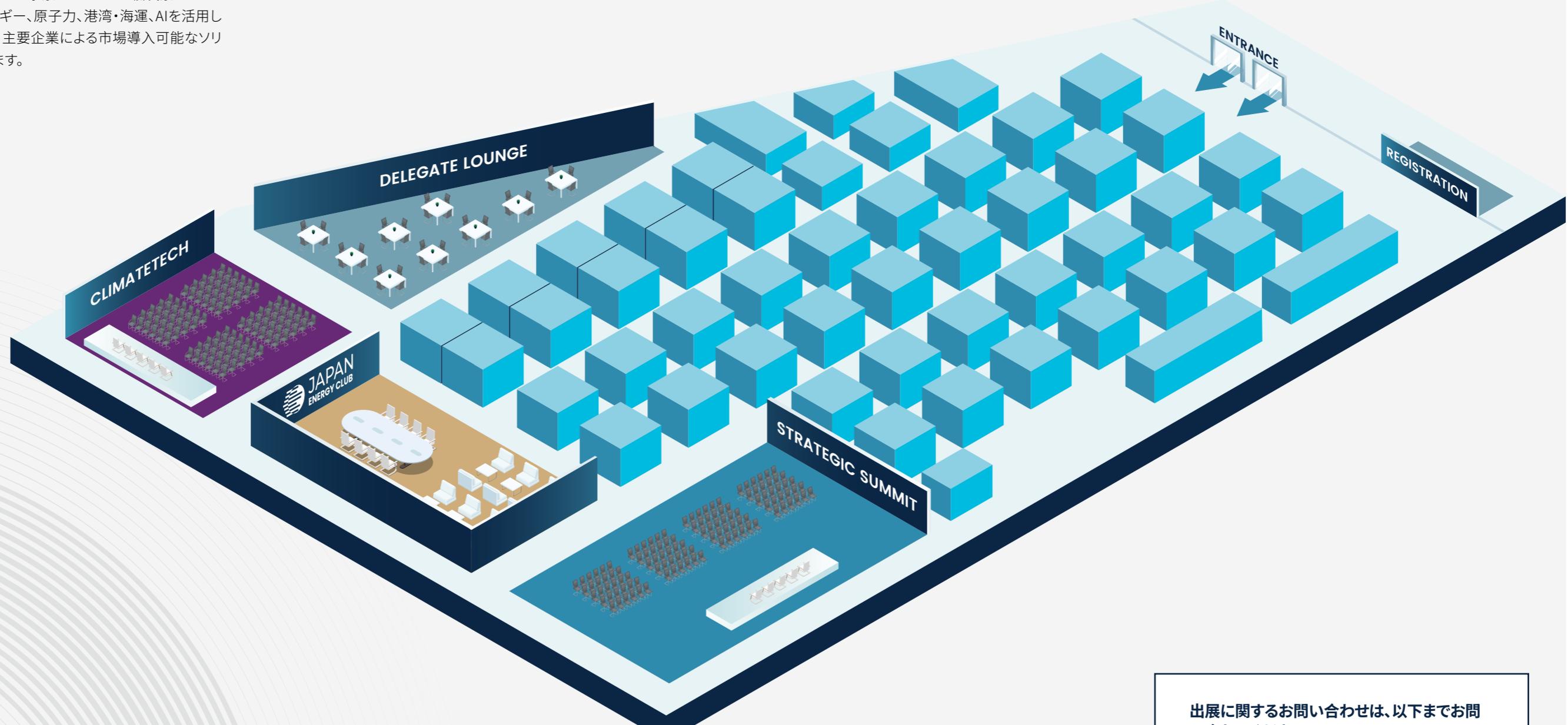
展示会

東京ビッグサイト、東7ホール

本展示会は、戦略的ビジョンと技術革新を、協調的な投資と大規模な実装へと結びつける場です。この国際的な業界集会では、安全で脱炭素化され、かつ経済的に強靭なエネルギー・システムを構築するために不可欠な技術・サービス・インフラが紹介されます。

2026年5月26日～28日、東京ビッグサイトにて開催される本展示会では、天然ガス・LNG、水素・アンモニア、低炭素ソリューション、再生可能エネルギー、原子力、港湾・海運、AIを活用したデジタル化技術など、主要企業による市場導入可能なソリューションがお出展されます。

出展者は、世界を代表する大手企業から新進気鋭のイノベーターまで多岐にわたり、エネルギー転換を加速する多様な技術力を反映しています。エネルギー・バリューチェーン全体から集まる数千人規模のシニアプロフェッショナルや意思決定者が一堂に会する本展示会は、パートナーシップの形成、イノベーションの発見、そしてビジネスの拡大に最適な機会を提供します。



出展に関するお問い合わせは、以下までお問い合わせください：
sales@japanenergyevent.com
+971 4 248 3252

2025年 參加企業一覽：



イベント特色



クライメートテックシアター

多彩なセッション、ネットワーキング、チャレンジ企画を融合した「クライメートテック・シアター」は、学生、若手プロフェッショナル、起業家、そして業界のエグゼクティブが一堂に会し、ネットゼロ社会への道を切り拓く最先端のアイデアとイノベーションを探求するユニークなプラットフォームを提供します。



ウィメン・イン・エナジー

「ウィメン・イン・エナジープログラム」は、ネットワーキングレセプションおよび専用のカンファレンスセッションで構成されており、グローバルなエネルギー転換を推進する女性たちのリーダーシップ、見識、そしてその影響力を称えるものです。

このプログラムは、国際的なエネルギーバリューチェーン全体における女性リーダー、新進気鋭の人材、そして支援者たちの間で、有意義な対話と連携を促進することを目的としています。

インクルーシブで歓迎的な雰囲気のもと開催されるレセプションでは、すべての参加者が専門的なネットワークを構築し、見識を交換し、より革新的で強靭、かつ公平なエネルギーの未来をともに築く機会を提供します。



ASUプログラム

ASUプログラムは、次世代の力を引き出すという国内外の取り組みを反映したものです。「ASU(明日)」という名前には、明日への挑戦を支えるリーダーシップ、イノベーション、そして多様性を尊重した持続可能な成長を体現する理念が込められています。

本プログラムは、チャレンジ企画、ネットワーキング、特別入場料金などで構成されており、日本およびアジアのエネルギーの未来を担う若手専門職、学生、新進のイノベーターたちの活躍と参加を促進し、機会の創出や知見の共有を加速することを目的としています。ASUプログラム限定の特別参加料金をご案内しています。

スポンサーシップに関するご相談は、以下までお問い合わせください

sales@japanenergyevent.com | +971 4 248 3252

Minoru Kanehana
Chairman of the Board
Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.

Yuichiro Fujiyama
SVP, ENEOS Corporation & CTO
ENEOS Holdings, Inc.

Phil Caldwell
CEO
Ceres Power



カンファレンスパス

参加者としてご登録いただくことで、多彩な基調講演、講演、パネルディスカッションを通じ、各分野の専門家から直接インターンシップを得ることが可能となります。

オールアクセスパス

早期割引料金: **505,000円**

2026年1月30日まで有効、以降は標準料金565,000円となります。

以下のアクセスが含まれます:

- 開会式
- ストラテジー・カンファレンス
- テクニカル・カンファレンス
- クライメートテックゾーン & シアター
- デリゲートラウンジ
- 朝食、コーヒーブレイク、ランチ
- 展示会

テクニカル・ カンファレンスパス

早期割引料金: **195,000円**

2026年1月30日まで有効、以降は標準料金225,000円となります。

以下のアクセスが含まれます:

- 開会式
- テクニカル・カンファレンス
- クライメートテックゾーン & シアター
- デリゲートラウンジ
- 朝食、コーヒーブレイク、ランチ
- 展示会

団体申込

チームで参加することで大幅な割引が適用されます。メンバーは同時進行のセッションに参加でき、より多くのソリューション発見やネットワーキングの機会を得られます。

次世代を担うリーダー達

35歳未満の若手プロフェッショナルの皆さまは、下記メールアドレスまで直接ご連絡ください。ご本人様ならびに研修・育成プログラムに参加される同僚の方々向けの特別料金について、詳細をご案内いたします。

グループ向け優待料金については、下記メールアドレスまでご連絡ください。
delegates@japanenergyevent.com



JAPAN ENERGY SUMMIT & EXHIBITION

ジャパン・エネルギー・サミット

2026年5月
26日(火)～28日(木)
東京ビッグサイト

イベントについての詳細は
www.japanenergyevent.com

dmg::events Offices

HEADQUARTERS

Dubai
3rd Floor, The Palladium, Cluster C
Jumeirah Lakes Towers
P.O. Box 33817
Dubai
United Arab Emirates
T: +971 4 438 0355

Abu Dhabi
Yas Creative Hub, Yas Island
Tower 4, Level 6, Office C40-L06-10
PO Box 769256
Abu Dhabi
United Arab Emirates
T: +971 2 444 4909

Cape Town
PO Box 30372
Tokai, 7966
Cape Town
South Africa
T: +27 21 700 5500

Lagos
3rd Floor, Mulliner Towers,
Alfred Rewane Road,
Ikoyi, Lagos,
Nigeria

Redhill
Quartz House
20 Clarendon Road
Redhill Surrey - RH1 1QX
United Kingdom
T: +44 173 792 5051

Cairo
Building P6, Floor 5,
Office #503,
Cairo Festival City, Podium 1,
New Cairo, Cairo, Egypt

Jeddah
Office 408, Sakura Plaza
Al Madinah, Al Munawarah Road
As Salamah District, PO Box 3650
Jeddah, Saudi Arabia
T: +966 11 266 5431

London
Northcliffe House
9 Derry Street
London
W8 5HY
United Kingdom
T: +44 203 615 5902

Riyadh
Unit No O-W21, 22,
Building Number 3269
Ans Ibn Malik Street,
Al Malqa District,
Riyadh City, Saudi Arabia
T: +966 11 266 5431

Calgary
#1510 140 10th Ave SE
Calgary, Alberta
T2G 0R1
Canada
T: +1 403 209 3555

Johannesburg
2nd Floor, Pod on Grayston,
108 Elizabeth Street,
Parkmore, Johannesburg
South Africa
T: +21 700 5500

Mumbai
Regus Suburb Centres Pvt Ltd,
Level 4,
Dynasty Business Park,
Andheri Kurla Road, Andheri East,
Mumbai - 400059,
Maharashtra - India

Singapore
63 Robinson Road,
#08-01,
Afro Asia,
068894
Singapore
T: +65 6856 5205